

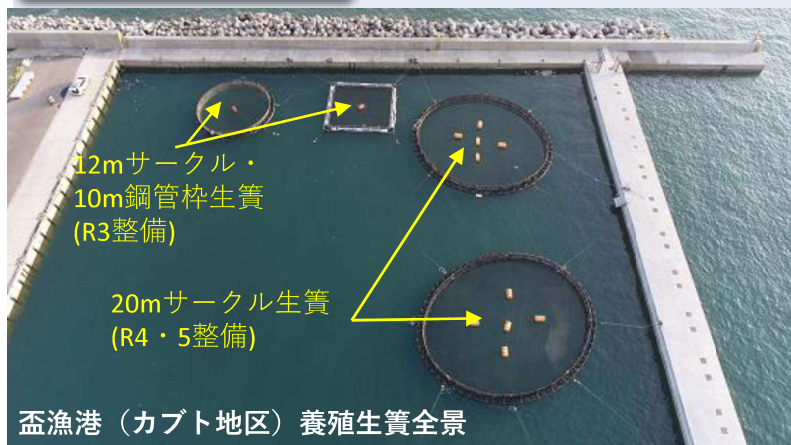
概要

- スルメイカ等回遊性資源の減少、漁業者の減少・高齢化等から利用が低下していた盃漁港（カブト地区）において、令和3年からトラウトサーモン（ニジマス）の養殖試験を開始。
- 2年間の試験で成長・生残とも好成績。2年目は生簀1基を追加したが、需要に対し供給不足であったため、3年目（令和5年）に更に生簀を1基追加。
- 水揚げしたサーモンは「北海道とまりカブトサーモン」とネーミングし、販促用ポスター・ステッカーを作成、道内スーパー等で利用してもらっている。また、生食用に冷凍加工し、ふるさと納税返礼品としても活用。

北海道



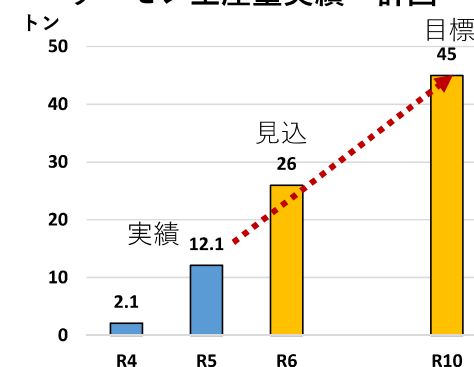
海業の取組概要



- 養殖試験にあたり、漁協で魚類養殖部会を組織。毎日の給餌や水揚げ作業等を実施。
- 泊村は生簀当施設整備への補助や部会の運転資金造成のため種苗費・飼料費の一部を支援。
- 成長・生残率とも好成績で飼育数は1年目の約800尾から3年目は約11,800尾に規模拡大。
- 各生簀に水中カメラを設置し、摂餌状況・水温等を確認。
- 今後給餌方法等コスト削減に取り組み事業化を目指す。

効果

サーモン生産量実績・計画



協力体制

取組主体：古宇郡漁業協同組合、魚類養殖部会、泊村

支援組織：北海道後志総合振興局水産技術普及指導所、北海道立総合研究機構

スケジュール

- 令和5年 給餌量削減試験、加工品開発
- 令和6～9年 コスト削減手法等の検討・実施
- 令和10年 養殖港としての施設整備等事業化、漁業権設定



水揚げしたサーモンは全て活け締めして出荷



ポスター・ステッカー作成



ふるさと納税返礼品として活用